

令和4年度「学校教育自己診断」結果の分析

○アンケート調査の方法および項目の精選と回収率

令和3年度まではマークシート用紙による調査を行ってきたが、今回「さくら連絡網」のアンケート機能を利用した。保護者向き44項目(自由記述含む)、生徒向き49項目、教員向き45項目をおよそ半数に精選し、いずれも匿名による回答とした。

回収率は以下の通りである。

保護者向き 845/995 = 84.9% (R3は80.4%)

生徒向き 810/995 = 81.4% (R3は授業アンケートと同時実施のため96%)

○昨年と同様、肯定率が高いもの

質問項目	保護者		生徒		教員	
	R4	R3	R4	R3	R4	R3
学校に行くのが楽しい	87.4%	84.6%	85.0%	89.5%	-	-
社会に役立つ有為な人材を育成しようとしている	92.0%	91.0%	84.8%	87.8%	-	-
学校は進路 HR 等で進路についての情報をよく知らせてくれる	85.6%	85.0%	87.0%	89.6%	96.0%	91.7%
体育祭、文化祭などは生徒の力で自主的に運営されている	90.6%	90.3%	96.4%	97.8%	92.0%	90.2%

【分析】

●学校生活

・保護者、生徒ともに満足感があり、かつ学校の教育活動についての期待度は大きい。

●進路

・LHR・「総合的な探究」での学び、学年別の進路ニュースの発行などきめ細やかな進路指導が支持されている。

●生徒活動

・体育祭や文化祭など、生徒会を中心として生徒が自主的に企画運営するスタイルが満足度の高さに表れている。

○昨年比較で肯定率が大幅に上回っているもの

質問項目	保護者		生徒		教員	
	R4	R3	R4	R3	R4	R3
学校の授業や補習、講習で進路達成に必要な学力が身につく	71.0%	52.1%	87.5%	63.7%	94.0%	86.7%
社会で活躍する方の話を聞く機会が提供されている	76.1%	56.1%	85.3%	60.6%	86.0%	80.3%
学校はホームページ・ブログや「さくら連絡網」などで情報をよく提供している	94.8%	79.9%	94.0%	87.2%	98.0%	81.7%

【分析】

●授業

・個別指導型や映像配信型の学習に抵抗がなく、直接的に授業力が高い講義を受けることが少なくなっていることが

推測される。本校の学習指導は中堅国公立大学や関西有名私立大学を意識したものになっており、生徒や保護者の進学ニーズに合致していることが評価された。

またコロナ禍以前におこなっていた学校外の大学の先生や社会人の方を招聘しての、進路講演会や人権講演会などを実施できたことが「社会で活躍する方の話が聞けた」の項目に反映されている。

●情報提供

・「さくら連絡網」を導入したことにより、利便性が高まったことが肯定率の増加につながった。

○昨年比較で肯定率が下回っているもの

質問項目	保護者		生徒		教員	
	R4	R3	R4	R3	R4	R3
学校の生活指導は適切である	87.1%	93.3%	73.6%	84.2%		
分かりやすく興味が持てる授業が多い	73.7%	-	79.0%	91.4%	94.0%	98.4%
読書の習慣がある	-	-	49.4%	51.7%	56.0%	88.3%
学校の進路指導の取り組みに満足している	80.7%	89.9%	83.4%	84.5%	96.0%	-
学校は生徒の健康に関する情報をよく提供している	77.5%	82.8%	79.4%	85.6%	96.0%	-
学校は命の大切さや社会のルールを学ぶ機会を提供している	83.1%	89.1%	82.2%	80.6%	80.0%	83.6%
困っていることや悩みを相談できる先生がいる	68.2%	71.4%	67.5%	72.0%	84.0%	90.0%
学校の施設設備は学習環境として適切である	62.1%	68.6%	62.2%	72.4%	28.0%	40.7%

【分析】

●全体

・前年度と取組みは大きく変更はなかったが、減少項目が増加した。学校への期待がさらに高まっていると考える。

●学習面

・先の質問で「学校の授業や補習、講習で進路達成に必要な学力が身につく」と答えているにも関わらず、「興味が持てる授業が多い」と答えた生徒は少ない。「対話的で深い学び」を成立させる手法と、生徒の学ぶ意欲の向上・モチベーション維持の方策について再確認する必要がある。また、保護者の進路指導への期待は難関国公立大への進学にあると思われる。読書習慣について、教員への質問は「学校の読書活動は適切に行われている」であったが、読書習慣がない生徒へ「朝読」以外にどのような方法で読書を習慣づけるかはこれからの課題である。

●保健・設備関係

・健康に関する情報の提供や学習も行っているが、定着する機会が少ないと思われる。

・困りごとの相談は年々に増加している。担任はもとより、SC や SSW と連携をしているが、すべての案件に対応できる時間と予算の確保が重要である。

・学校設備はトイレの改修や、エアコンの更新などを進めている。肯定率を上げる最善の策は、校舎の古さを考えると建替えである。これについては予算などの面で学校が取り組める範囲を超えている。